

ミローヴァ・ディロロ研究員（タジキスタン）

私は2002年11月より、タジキスタン共和国非常事態省の大臣室で主任専門官として勤務しておりましたが、今年7月より、アジア防災センターで客員研究員として勤務しています。

タジキスタンの非常事態省は、自然災害及び人為災害から人々の生命と国土を守るため、非常事態の防止、軽減、対応などに関する問題を扱う国家組織であり、防災分野全般の政策立案と提言を行います。その中で私は、国の災害や防災に関する情報の収集・分析を主に担当していました。

タジキスタンは山が多く、様々な災害が発生しやすい国土であり、特に洪水、干ばつ、地滑り、地震といった災害がよく発生します。1992年から2002年にかけて中央アジアで記録された災害の約半分は、タジキスタンで発生したものです。2005年7月に発生した洪水では、1,000万米ドルを超える直接経済損失が発生し、また、2004年7月の洪水では、首都ドゥシャンベ市民の約60%が、清潔な飲料水を手に入れない状態が続きました。

災害対応の際の調整機能を強化するため、2001年に、非常事態省と国連人道問題調整事務所(OCHA)が共同で、REACT(早期緊急評価調整チーム)を設立しました。この災害管理調整機関は、全ての非政府機関や関連国家機関を連携させるとともに、非常事態省が、災害応急対応時における緊急の救援ニーズの特定、及び適切な支援策を円滑に行うための支援を主眼に置いています。この機構は、2003年に大幅に拡充され、防災関連機関の一般的な調整プラットフォームとしての機能を果たしています。

また、アジア防災センターの、メンバー国の防災機能の強化を目的とした共同プロジェクトとして、タジキスタン非常事態省では、2004年8月2日から6日にかけて「防災ワークショップ」をロシア語と英語で開催しました。このワークショップでは、国連開発計画(UNDP)、国連防災戦略(UN/ISDR)の協力も得ました。

アジア防災センターでは、コミュニティベースの早期警報システム作りや、自然災害に対する予防、軽減、対応、復興に関する革新的な方策や技術についての知識を得たいと考えております。そして帰国後、非常事態省に新たに設立された情報管理分析センターで、日本で得た知識や技術を活かしたいと考えています。日本の神戸に位置するアジア防災センターは、防災について学ぶにあたり理想的な場所であると思います。日本を訪れ、日本やアジア防災センターメンバー国の幅広い防災経験について学ぶ機会を与えてくれた、アジア防災センターと日本政府に感謝しています。

